

「聴いて・考えて・つなげる」通信



教材紹介

「屋台のお店やさん。」GWT（グループワークトレーニング）
〔ねらい〕

1. 自分もっている情報を正確に伝える。正しく聞くことの重要性に気付かせる。
2. 情報を集めてまとめるときに、協力の大切さを学ばせる。
3. 指導者の観点から見て、誰がどんな役割をするか、グループがどのような動きをするか観察する

〔準備物〕

大封筒と小封筒、白地図 「情報カード」のセット
「ふりかえりシート」グループ用と、メンバー用。

〔時間配分〕 45分

- | | |
|--------------|-----|
| 1、机移動 | 1分 |
| 2、準備・説明 | 5分 |
| 3、実施 | 20分 |
| 4、振り返り（グループ） | 8分 |
| 5、机移動 | 1分 |
| 6、振り返り（個人） | 10分 |

〔進め方〕

- 1、グループで机をつける。（5～6人）
- 2、情報カード、白地図、を指導者が配る。「指示があるまで見ない」
- 3、課題を読み上げる。
「道路をはさんで、お店が並んでいます。どんな店が、どんな順序で並んでいるか、カードの情報をもとに、地図を完成させてください」
- 4、注意事項を読み上げる。
「ちいさい封筒に入っているカードを平等にみんなに全て配ってください。カードに書かれていることを、自分の口で、他の人に正しく伝えてください。他の人に見せたり、とりかえてはいけません。時間は20分です。」
- 5、「できたグループは地図を持って来てください。」
- 6、「時間なので、机を戻してください」※振り返りシート個人用を配布して記入させる。

〔留意点〕

生徒は、ゲームを主目的に感じているが、「振り返りシート」の記入が一番大切な項目である。皆の前で認め合うことが主目的。落ち着いて個人の振り返りを記入することも大切。



2021.5.31 人権教育学習セミナー
内容 「仲間づくり教材 『屋台の夜店』」

放課後の時間を使って、教材研究をしました。たくさんの先生が参加してくださりました。実際にこのゲームをして思ったこと気づいたことなどを振り返りシートに書いていただきましたので紹介します。

～先生方のご意見～

実際にやってみた感想

- つかれた～
- みんな話を細かいところまでしっかり聞く。先入観を持たないで整理していくまとめ役がいてスムーズにまとめられると思った。
- カードの鍵を握る人もいるし中心になって話を進めたり一人一人の仲を深めるには良いと思いました。
- 話しにくい人にカードをいかに説明させるかというのもチームの力だと思いました。
- みんな上手に説明してくれていて、自分の話すときに自分のカードの内容を100%伝えるのはむづかしいなと思った。
- 全員が話を聞いて積極的に意見を言わないとうまく店並びが決まらないと思った。
- 積極的に話さないと全員でクリアできないので話すのが大切だと思った。
- 物事を理解して共有知り事のむづかしさと大切さを改めて思った。
話すってむづかしい。
- 情報がむづかしく協力することの大切さを改めて確認できました。
- 一つの意見が出た時関連付けて説明することが大切だとかんじました。
- 話さない子へのサポート 班の人数。考えようがあるのでそこが難しいと思った。
- 一人でも発言しない子がいると答えが出ないので一人一人がしっかりと発言しなければならないような状況を作ることができる。
- 順序だててはなさないと言った情報がまとまらない。図に描きこまないと時間がかかる
- 必ず全員が情報を出さないと店の場所が分からない。
- 楽しかったです。よく聞き、判断することが大切でした。
- みんなのアイデアがあったから成し遂げられました。
準備などありがとうございました。

～実際に先生方が、この教材を使うとき、どんな使い方があるかプロの目で分析していただきました。その意見ですので参考にしてください。～

①どのような時にこの教材が使えるか

・担任になったら、クラスの仲がすこしほぐれたくらいにしてみたいと思いました。あまりに早い時期の実施だと、それほど気軽には話せないのかなと思いました。

1. 学級開きをして間もないタイミング

→リーダーの素質がある生徒や自分の意見を発言できない生徒などを把握できる。それが把握できていると席替えでバランスの良い班を作りやすくなると思います。

2. 席替えをした後のタイミング

→班のメンバーで1つの目標に向けて頑張ることの大切さや目標を達成したときの一体感を生徒に味わってもらい班の仲を深め、これからの班活動をよりよくする。

場面に関しては、アイスブレイク等でも使えるのではないかなと思いました。もしくは、授業の受け方を勉強した後、時間を空けて行うことで授業の受け方の復習などにも使えるのではないかなと思いました。

②実際にご自分が指導する立場にたって、どのような点にメリットを感じるか、どのような点に気を付けるとよいか。

- ・グループのメンバーに気をつけたいと思いました。にぎやかな人ばかり、静かな人ばかり、などその子たちの個性に偏りが出ないようにしたいです。
- ・あたたかな聴き方、話し方を事前に提示してみるのもいいかなと思いました。
- ・出た考えを否定しないこと、間違っても誰かのせいにしないことを注意したいと思いました。

うまくいった班は絆が深まる。リーダーの素質がある生徒や自分の意見を発言できない生徒などを把握できる。うまくいかなかった班にはフォローが必要。決して楽しむための活動ではないことをどこかのタイミングで伝える。

説明の仕方や話の聞き方を教室のマグネットを利用して全体に説明しておく。特に自分のカードは見せないところは守らせようと思います。また、時間を決めて、〇分からはカードを見せ合ってもよいというルールを付け加えてもいいかもしれません。(できなくて悔しいという人がおおそうであれば)

最後に班ごとに完成したものを前の黒板に貼ったり、モニタに写して全体で正解なのか話し合いをさせればいいのかと思います。

メリットに関しては、どうしても自分のカードを説明しないと進まないで班のメンバーと交流ができるので学期の始めなどでも使えるのかなと…

他にも、授業の受け方の復習にもなるのでタイミング的には1学期の中間くらいか2, 3学期の始め頃がいいのではないかなと思います。

③その他

- ・1, 2年生の国語の授業(話す・聞く)でも使えそうな気がしました。

(どういう評価項目でそう思ったかについて、「中学校国語 各学年の観点別学習状況の評価の「2 内容」」より抜粋)

中学校国語 第1学年 「中学校国語 各学年の観点別学習状況の評価の「2 内容」」思考判断
ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。

オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

中学校国語第2学年

エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

この教材の面白いところは、「①それぞれのカードの情報を出し合ってどうやって解決するか考えよう」「②とりあえず並べてみよう」「③正しいかどうか、確かめてみよう」「④正しくなかったところをなおそう。」とこの流れを繰り返すところです。この流れがうまく回った時に、主体的対話的な話し合いが行われます。この教材の大きな特徴は①のカードに書いてあることを伝えるところにあると思う。おしゃべりの苦手な生徒から何とか情報を聞き出さなくてはならないし、他の生徒の持っている情報をしっかり聞いて理解して覚えておく必要がある。仲良しとか、しゃべりにくい、とか言っておられず同じ問題を解決する「仲間」になるしかこの教材を解き明かすことはできない。一時間が終了するころにはある種の同盟のような感覚が生まれている。全ての生徒に役割があり、一時間の中で、必ず何かの役割が与えられ、認められたからこそ得られた自己肯定感、自己有用感のUPのおかげなのかもしれません。